

安倍政権「幻想の国へ」

安倍晋三内閣の発足直後の世論調査では、女性の支持率が高かった。新政権の女性施策はどうなるのか。岩本美砂子三重大教授(政治学)に寄稿してもらった。

女性施策の行方

三重大教授・岩本美砂子

小泉純一郎前首相が独身であることが、女性有権者をひきつけるのに貢献した」と言う論者がいる。その伝で言えば、教育にこだわる安倍晋三首相は子どもがいないので、上からの押しつけに子どもは決して従わず、法律をいじっても日本の教育の危機は解決しないことが分らない、と批判できるだろう。

しかし、私は他人の家族には口を挟まない。跡継ぎを産めという圧力は、女性の人権を侵害する。子どものいない夫婦も養子をもつ人も

ジェンダーフリー非難 母親役割に閉じこめる

いい。事実、安倍家周辺は養子が多く、安倍氏の祖父の岸信介元首相と佐藤栄作元首相兄弟の姓が違つのもそのためだ。

ところが自著「美しい国へ」の中で、安倍氏は少子化を憂い、夫・阿部俊子氏や広津素子氏らのな家族を描いた家庭教科書を疑

い。事実、安倍家周辺は養子が多く、安倍氏の祖父の岸信介元首相と佐藤栄作元首相兄弟の姓が違つのもそのためだ。



いわもと・みさこさん 1957年 広島県生まれ。名古屋大学大学院法学研究科満期退学。

1からの解放を非難してきた。ジェンダーからの解放をめざす人々は自民党にもいる。前少子化・男女共同参画担当の猪口邦子氏、阿部俊子氏や広津素子氏らの小泉チルドレン、ベテランの森山

出産のために学業や仕事を中断する女性は、格差社会の底辺に落ち込みがちだ。安倍氏のように「再チャレンジ」を言うなら、望まぬ妊娠、望まぬ出産を防ぐことが急務。避妊を含む性教育は、むしろ促進するべきだ。

真弓氏、今は無所属の野田聖子氏らだ。男性の自民党員議にたたかれている千葉県の堂本暁子知事も、この立場。生物学的性差を無視せず、女性特有の疾患に女医・女性検査技師が対応する女性外来を始め「リプロダクティブライツ」(い

つ何人子どもを産むか、産まないかを妊娠・出産の当事者である女性が決定する権利)を重視するからだ。山谷氏は性教育に反対、人工妊娠中絶は厳禁、シングルマザーは日本の美風を破壊すると言うのだから、知識不足で妊娠した未婚女性には「できちゃった婚」するしか

想である。男系男子による天皇の継承とか夫婦同姓とか、日本の伝統と思われているものは、実は明治期に発明されたものが多い。山や海でたくましく働いてきた日本女性の歴史を忘れ、母親役割に閉じこめるのは「美しい」伝統ではなく、幻想である。



新内閣発足後、記念写真に納まる安倍晋三首相(前列右から2人目)と首相補佐官ら。2列目左端が山谷えり子氏